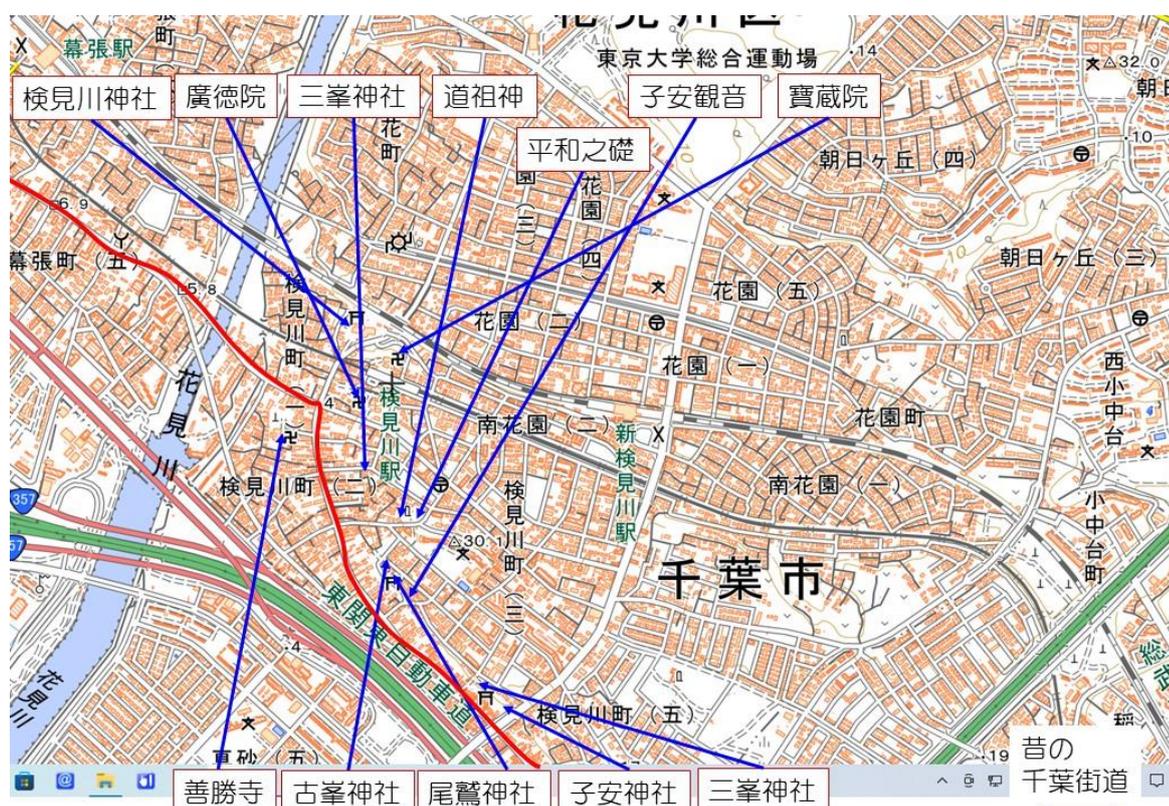


検見川を歩いて見る  
～検見川の寺社巡り～

検見川五丁目に住む知人から「町内にある三峯神社」の話聞いたのがきっかけとなり、旧検見川村一帯を地図で調べてみた。これまで検見川神社と畑子安神社のことぐらいしか知らなかったが、地図を見るとこんなに沢山の寺社が、しかも旧海岸線の崖の上に並ぶように存在することがわかった。古今の地図を見比べるなどしているうちに、自分の足で歩いて自分の目で見たくなり、こんな散策の「小さな旅」を思いついた。

平坦に描かれた地図を見てもわからないが、実際に歩いて見ると上り坂や下り坂があり、崖があり岡があり谷もある。そんなものを体で感じながら歩いていると、昔の地形が頭に浮かび昔の民の暮らしさえも思い浮かべることができる。

そして、驚きがあったり疑問があったり、納得があったりして、とても愉快的な旅になった。



◆子安神社

<https://yahoo.jp/MZWclq>

総武線の新検見川駅の上に架かる陸橋を渡って、海浜ニュータウンの方へ向かって歩くこと10分ほどで検見川五丁目交差点。ここから道は少し下り、検見川陸橋に入る。陸橋を渡りながら振り返ると地形がよくわかるのだが、陸橋の下は大きな段差で崖の下になっている。崖の下を通る古い千葉街道のそのすぐ横に海岸線があった。ニュータウン造成の為に海は埋め立てられて、今では海岸線は数キロ先になってしまった。

検見川陸橋から幕張側の側道を旧千葉街道へと下ると、右手に小さな祠が建ちその脇に長い階段が崖を上っている。約40段の階段を上って、かすかに切り拓かれた道を進むと六地蔵が並ぶ小さな社が海に向かって建ちその横に石仏を積み上げて造った小山が現われた。どこにも表記は見あたらないが、地図では「子安神社」となっている。

今では樹木に覆われてしまっているが、海岸線の崖の上なので遠望がきくところだったのだろう。海を見下ろす崖の上に建つ「子安の神」の意味は如何なるものかと少し考えてみた。

周囲はきれいに清掃されていて、地域の人達が守っている様子が感じられる。

ここから北へ 3Km ほどの所に畑（はた）子安神社があり、その末社として祀られたのではないかと思うがどこにも何も書いてない。畑子安神社は延暦年間（西暦 800 年頃）に五穀豊穡の神として祀られたのが始まりで、下総三社のひとつに数えられ、代々の皇太子妃に岩田帯を献上しているとのこと。

#### ◆三峯神社 <https://yahoo.jp/SfxXLj>

子安神社を後にして、旧陸地へと坂を上り左に曲がり、子安神社の裏の道を幕張方面に向かって歩くと左側（海側）に茂みが見えてきた。

旧海岸線から急勾配の階段が上ってきた所に一對の狛犬が鎮座している。三峯権現なので、狛犬の表情を見ると山犬（狼）のようだ。「本殿→」と書いた立て札に従って細い参道を進むと、「御神木」という看板がついた二本の大木が海に向かって立ち、その後に鳥居が現れた。小さいながらも立派な本殿の脇に「三峯神社」と書いた石板が建ち威風堂々という雰囲気か漂っていた。日々清掃が行われているらしく、至る所に箒目が立っていて清々しい気分になる。

三峯神社と言えば「山の神」を思い浮かべるが、この「小さな旅」を思いついて地図を眺めている時に何故海を見下ろす所にあるのだろうと、気になった。

実は三峯神社は、北西へ 1Km ほどの所にある検見川神社の境内末社のひとつで三峯大神を祀る「盗難除け」の神で「犬飼神社」とも言われていた。境内末社の分身を祀っているのが、海を見下ろす崖の上のこの社ということだった。

江戸時代に流行った「三峯講」も関係しているのかも知れない。秩父の三峯神社のお犬様のお札は「火除けの神」とも言われていたので、民の暮らしとは密接に関わり合っていたものと思う。

#### ◆子安観音 <https://yahoo.jp/WopNr6>

北西に向かって歩を進めると、検見川三丁目の斜面に建つ民家の間の隙間のようなところに小さいながらもきれいに作られた「子安観音」がある。コンクリートの石段を 6 段ほど上がった斜面にへばりつくように建っていて、気をつけて見ていないと見落としそうな祠だ。平成三年に改築したことを示す石碑が建っている。これもまた、海の方に向かって建っている。

名前から前述の畑子安神社との関連を想起することもできるが、高野山真言宗の子安観音寺との関係も考えられる。ちなみに、真言宗の子安観音寺という寺は三重県の鈴鹿にある。

#### ◆尾鷲神社 <https://yahoo.jp/k8Yes8>

子安観音から住宅地を一区画幕張寄りに進むと尾鷲神社がある。

三重県尾鷲市にある尾鷲神社との関係を思い浮かべたが、そうではないことがわかった。

検見川神社の境外末社で、正式な名前は「鷲神社（おわしじんじゃ）」。「おわしさま」が転じた後、「尾鷲」が当て字として当てられたものと考えられる。本殿に施された彫り物には鷲の姿をあしらったものもあり、海岸沿いに暮らす漁師たちが空を勇壮に流す鷲の姿を見てこれを神として崇めたのではないかと。鷲の飛翔を見て、上空の風の動きを読み、海の気象予測に役立てたのではないかなどなど、想像が広がる神社である。

海岸側から鳥居に迎えられて階段を上るようになっている。境内には、少々痛んでいる神楽殿のようなものがあるが、どうやら物置になってしまったようだった。

#### ◆古峯神社 <https://yahoo.jp/-2JS0e>

尾鷲神社の隣にある検見川三丁目自治会の建物の反対側に古峯（ふるみね）神社がある。よくよく見ると同じ敷地の中で、尾鷲神社とつながっていた。

名前からは、栃木県鹿沼市の古峯ヶ原（こぶがはら）の古峯（ふるみね）神社を想起する。日光修験・古峯講などとの関係があるのだろうかと思いが弾んだのだが、これも検見川神社の境内末社のひとつで

ある「古峯（ふるみね）神社」からきていることがわかった。日本武尊を祭神とする「勝負事の神」建物はやはり海の方を向いて建っているのだから、漁業従事者の守り神だったのだろうか。コンクリートの台座の上に三つの社が並んでおり、後に民家の外壁が迫っている。やや北寄りに進路を取り、検見川公民館でトイレ休憩。

#### ◆道祖神

<https://yahoo.jp/mB-LbW>

公民館を出ると目の前にこんもりとした小さな森があり、四段ほどの石段を上がると「道祖神」と書いた板を貼り付けた鳥居が目に入った。石段を上がって見ると、小さな社の右側に社の倍もあるような「道祖神」と書いた石碑が建っている。暗いのと刻んだ文字が浅いせいにか他の文字は判読出来なかった。昭和三年版の国土地理院の地形図を見ると、当時の千葉街道のルートがよくわかる。幕張方面から京成電鉄の線路に沿って進み、花見川を渡ってしばらく行き検見川神社の入口（今の検見川神社南交差点）で右に曲がりゆっくりと海岸線に近づいて行き、今の検見川陸橋のところにつながっている。ここまで辿ってきた寺社は、すべてこの街道から何歩か踏み込んだところにある。今となっては「なぜこんな奥まったところに道祖神が？」と思うだろうが、昔は千葉街道からちょっと入った高台にあったということだ。

#### ◆平和之礎

<https://yahoo.jp/fRJNtg>

道祖神の右側に切り拓かれた高台への通路が見えた。一歩踏み込んでみたら、広場の中央に大きな石碑が立ち、「平和之礎」と書かれていた。

日支事変・大東亜戦争の戦没者 177 柱の慰霊を目的に建てられたもので、衆議院議員、千葉県遺族会会長白井壮一の名前で一文したためられている。昭和34年3月に建てたものらしい。

177 柱に含まれるものは何か。碑文（下記）の内容からすると軍人関係だけと思われる。

満州事変、日華事変、太平洋戦争等の戦役に従軍された方々は、国を愛する信念に徹し、家を忘れ、肉親の情を断ち、極寒の山野に、炎熱の孤島に、あらゆる困苦欠乏に堪えて勇戦奮闘された。この間戦没された検見川町出身の英霊は実に170余柱の多きに及ぶ。

不幸、戦いに敗れたりとも、この尊き犠牲は世界各民族の独立を促して実を結び、国是に殉じた忠勇義烈の至誠は最高最大の奉祀の精神として輝く。

国破れて山河あり、戦後の混乱を克服して、ここに十有三年、経済は回復し、人心の安定を得た今日これら英霊の勲を永く万世に伝え 以て国民精神の柱、国家郷土の誇りとすべく全町民の志によりこの遺芳の碑を建立し、謹んで護国の英霊の冥福を祈る。

#### ◆三峯神社

<https://yahoo.jp/IMKX6c>

公民館のやや北西側にもうひとつ三峯神社があった。海側の路地から入る正面には表示のある石の鳥居が構えている。三十段ほどの石段を上るとこじんまりとした広場と二つの祠が現われた。さほど密度の高くない樹木の間からは近隣の住居が見えている。ここの三峯神社には狛犬（狼）はいなかった。

#### ◆廣徳院

<https://yahoo.jp/snACLp>

三峯神社から北北西に進むと京成千葉線の電車が走っているのが見える。京成検見川駅の南側に位置する検見川一丁目に、真言宗豊山派廣徳院がある。

正式な名称は「覺王山廣徳院中臺寺」で、宝亀五年（774年）創建だが、文政年間に焼失し後に再建されたらしい。境内の大銀杏は見応えがある。

#### ◆善勝寺

<https://yahoo.jp/jRMKFw>

廣徳院の南西にある検見川神社南側交差点の反対側に善勝寺がある。旧千葉街道が右折して海岸線に向

かう所にある。正式名称は、浄土宗求法山随流院善勝寺。大巖寺の随流大和尚が、末寺として1592年（文禄元年）に創建した。

大巖寺は天文年間（1500年代半ば）に下総国生実城主原胤栄夫妻の開基により開山され、浄土宗の関東十八檀林のひとつに数えられた。本尊は阿弥陀如来。

集落の路地奥にあり、民と共にあるという感じがするお寺だ。門を潜ると古い墓石を集めた一角と無縁仏を守る六地藏が出迎えてくれる。

1889年、町村制への移行に際し検見川村・稲毛村・畑村が合併して千葉郡検見川村が発足。この時の村役場がこの寺に設置された。

#### ◆寶蔵院

<https://yahoo.jp/MNanxH>

京成検見川駅の北側にあるのが真言宗豊山派医王山寶蔵院天随寺。検見川神社がある小山の東端になる。寺の創建時期は不詳なようだが、1628年（寛永5年）中興開祖の記録が残されているらしい。

本尊は阿弥陀如来。改装中のようで、門もなく敷地内は重機で削った状態になっており、長居はできぬ感じだった。善勝寺同様、戦死者の巨大な立派な墓ばかりが目についた。

#### ◆検見川神社

<https://yahoo.jp/OhKrGJ>

京成検見川駅と総武線線路との間にひときわ濃い樹林を持つ山が広がっている。この山の中に検見川神社があり、山の南東側に寶蔵院がある。検見川神社は海拔14m、京成検見川駅近くの旧千葉街道は海拔4m。またこれまでに歩いて来た海岸の崖の上の寺社は海拔10~16mの高さ。検見川神社周辺は、昔は海を目前にした入江になっていたように感じられる。

869年（貞観11年）、全国に広がった疫病の鎮静化を目的に、素戔鳴尊が祀られたのが始まりと言われている。素戔鳴尊（八坂神社祭神）・伊弉諾尊（熊野神社祭神）・宇迦之御魂神（稻荷神社祭神）の三神を祀っており、これを総称して検見川大明神と言った。

境内末社として、寄宮社五社堂殿・三峯神社・古峰神社・市神之社・浅間神社が祀られている。またこの他に境外末社として、鷲神社・三峯神社がある。（前記の項を参照）

古くは八坂神社と言われていたようで、明治から昭和初期の地図には八坂神社と書いてあるが、昭和62年に検見川神社と改称した。

#### ◆花見川と検見川

我が国の律令制において、治部省の機関として「玄蕃寮（げんぱりょう）」というものがあつた。

「ほうしまらのつかさ」と言われ、僧尼の名籍管理・宮中仏事の監督・外国使節の送迎接待・在京俘囚の接待饗応などを行った。「玄」は法師僧侶を意味し（ほうし）、「蕃」は賓客を意味する（まらひと）。東京大学検見川運動場の南端に「玄蕃所」があつたらしい。現在の東大セミナーハウスの東側の職員寮2の場所で、遺跡が発掘されたとのこと。

別な情報を辿ってみると、花見川の河口に玄蕃所の出先機関があり、蝦夷（えみし）・隼人（はやと）などの俘囚の移送中継施設があつたということもわかつた。この地には「検見川村字玄蕃所」という小字の地名が残っていたようだ。

蝦夷との戦の末に捉えられた俘囚を、水運でこの地に集めて尋問・分類してその後の活用を決めたという「検見（けみ）」の仕事をしていたという「検見川という地名」の起源にもつながる。

また、古い地図を遡ると「検見川」という地名は「ケミ川」「気見川」「毛見川」「華見川」などの表記もあり、「花見川」もその一つで当て字ではないかと言う説もあるらしい。

以上



道祖神



子安観音



三峯神社



子安神社



尾鷲神社

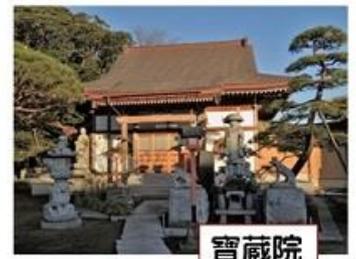


平和之礎

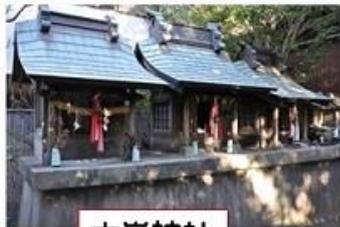
検見川の  
寺社を歩く



善勝寺



寶蔵院



古峯神社



三峯神社



廣徳院



検見川神社